

## 奈良) 週末に「愚痴聞き屋」、駅前に現れ続けて50回

筒井次郎 2016年3月10日03時00分



行基像の前で愚痴を聞く岡田浩徳さん＝奈良市



「愚痴聞き屋」が、近鉄奈良駅前に現れる。行基（ぎょうき）像の前に座り、〈無料で愚痴聞きます〉との紙を掲げる男性だ。家族、恋人、社会。嘆きや怒りを聞いて、今月、50回になった。不思議な活動をするのはお金では得られないモノがあるから、という。

「なんで、こんなことやってるんですか」

大勢の観光客が行き交う日曜の午後。愚痴聞き屋の岡田浩徳さん（33）＝大阪府枚方市＝に、一人の女子高校生が話しかけた。少し雑談。そして用意された折りたたみ椅子に腰掛けると、打ち明けた。

「彼にドタキャンされたんです」

聞くと、待ち合わせをしていたが、彼はこの日発表の受験で不合格だったらしく、「やっぱ家にいるわ」と電話で告げ、来なかったという。「むかつく！」と言う高校生。20分間聞き続け、「愚痴を『吸収』しました」と岡田さん。「立場や世代の違う人と話すのは、会話のトレーニングになります」

愚痴聞き屋を始めたのは2011年秋。高校時代の友人が大阪・梅田で取り組んでいるのを知り、興味を抱いた。京都タワーの近くで始め、14年夏から実家に近い行基像前で続ける。

得ることが多いから続けられた。聞くことは、会社員としての自分の仕事「営業」に生かせると感じる。「初めての人と話す時、自社の商品をアピールするより、まず相手の希望を聞き、それに合う商品を提供することが大切なんです」

だが、誰でも最初から打ち解けられるわけではない。心をほぐすため、質問を使い分ける。慎重なタイプには「はい・いいえ」で答えられる問いをする。話し好きな人には相手のペースに乗るが、聞きたい話題が出たら焦点を絞るように問いかける。そんな話術を会得した。

行基像前では、高校生からお年寄りまで500人ほどの話を聞いた。特に多いのは10～20代の女性。親や学校の先生に対する不満、子育てに理解のない夫への嘆き。お年寄りからは消費税や教育、改憲論議など社会問題への言い分がよく聞かれる。

自身は4児の父。「そんなに愚痴を『吸収』して家庭や仕事に影響しないか」と記者が尋ねた。

「お客さんが去った後は『自分に関係ない』と割り切るようにしている。そうでないと続

けられません」

愚痴聞き屋としての活動は、土曜か日曜の都合のつく時間帯だ。「毎回違う話が聞け、次に何が起こるか分からないライブ感がある。本当に飽きない」。近く奈良に引っ越し、今度は近鉄新大宮駅前で続ける予定だ。（筒井次郎）

#### ■気分転換・世間が分かる… 知人の場合は

岡田さんの高校時代の友人、田中齊太郎（せいたろう）さん（33）＝大阪市北区＝が愚痴聞き屋を始めたのは11年夏。当時は父の経営する会社の人事担当だったという。13年に社長に就いた今も、週1回の活動を続けている。

「気分転換になるし、聞いていると世の中のニーズもつかめる。部下から見てどんなことが上司の悪口になるか、参考になります」

---

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.